

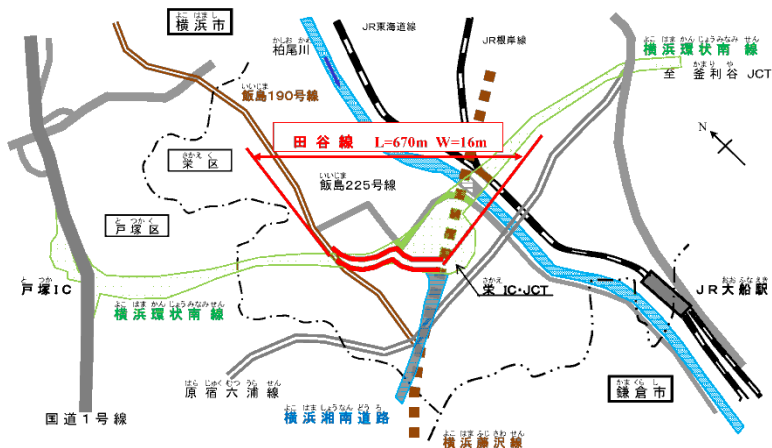
再評価結果（令和2年度事業継続箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課

担当課長名：渡辺 学

事業名	高規格ICアクセス 市道 ^{たや} 田谷線		事業 区分	地方道	事業 主体	神奈川県 横浜市
起終点	自：神奈川県横浜市 ^{さかえくたやちよう} 栄区田谷町 至：神奈川県横浜市 ^{さかえくたやちよう} 栄区田谷町		延長	0.67km		
事業概要						
市道田谷線は、都市計画道路田谷線と戸塚大船線の一部で構成されており、横浜藤沢線と市道下倉田第406号線を接続する延長約0.7kmの道路である。 本路線は、首都圏中央連絡自動車道の一部区間である高速横浜環状南線（以下「横浜環状南線」という。）と横浜湘南道路の出入口となる（仮称）栄インターチェンジ・ジャンクションに接続し、栄区及びその周辺からのアクセス性を高め、横浜環状南線及び横浜湘南道路の利便性を向上させるものである。						
H16年度事業化		H7年度都市計画決定		H16年度用地着手		H29年度工事着手
全体事業費	約20億円		事業進捗率	約60%		供用済延長
計画交通量	8,300台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	1.9	総費用 (残事業)/事業全体	6/23億円		総便益 (残事業)/事業全体
	(残事業)	7.5	事業費	5/23億円		走行時間短縮便益
			維持管理費	0.5/0.5億円		走行経費減少便益
						交通事故減少便益
						7/7億円
感度分析の結果						
(事業全体) 交通量 : B/C= 15.2~22.6 (交通量 ±10%) (残事業) 交通量 : B/C= 61.0~90.1 (交通量 ±10%)						
事業費 : B/C= 18.3~19.2 (事業費 ±10%) 事業費 : B/C= 68.9~82.7 (事業費 ±10%)						
事業期間 : B/C= 15.8~22.1 (事業期間±20%) 事業期間 : B/C= 68.4~81.5 (事業期間±20%)						
事業の効果等						
・ 歩行者・自転車の安全確保 歩道が整備されるため、歩行者・自転車が安心して快適に通行できるようになる。						
・ 広域アクセスへの寄与 首都圏中央連絡自動車道の一部である横浜環状南線及び横浜湘南道路と（仮称）栄インターチェンジ・ジャンクションに接続することから、首都圏各地との連携強化及び利便性の向上に寄与する。						
関係する地方公共団体等の意見						
「横浜市幹線道路網建設促進協議会」等の民間団体からも事業区間の早期整備の要望がある。						
事業評価監視委員会の意見						
事業継続を妥当と認める。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
首都圏中央連絡自動車道の西側区間における唯一の未開通区間となった、横浜環状南線及び横浜湘南道路について、開通時期が、横浜環状南線が令和7年度、横浜湘南道路が令和6年度と見直され、国土交通省及び東日本高速道路株が事業を進めている。また、本路線は横浜環状南線及び横浜湘南道路の（仮称）栄インターチェンジ・ジャンクションのアクセス道路となっているため、2路線の供用に合わせた供用ができるよう事業を推進する必要がある。						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
用地取得率約88%、事業進捗率約60%						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
工事については、地盤改良工事を実施しており、圏央道と同時供用を目指す。						
施設の構造や工法の変更等						
設計の際にコストを意識した構造及び施工方法の検討を行っている。また、舗装・構造物の基礎等については、再生材を使用する等可能な限りコスト縮減に努める。						
対応方針						
事業継続						
対応方針決定の理由						
事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。						

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。